

**授業概要**

主として動詞の意味がどのように文法に反映されるのか、という問題について書かれた英語学の論文を読みながら、英語を言語学的に分析するとはどういうことか、なぜそう分析するかを正確に理解することを目的とする。また英語の仕組みをちゃんと調べるために役立つ資料はすべて使うという立場から、映画の台本、ニュース番組、小説、新聞・雑誌の記事、インタビューなどから採った、英語話者の発話データも多用する。

**授業計画**

第1回	伝統的な辞書研究から語彙意味論その他の認知科学研究へ
第2回	Two Types of Derived Accomplishments(1)
第3回	Two Types of Derived Accomplishments (2)
第4回	Two Types of Derived Accomplishments (3)
第5回	Strong and Weak Predicates (1)
第6回	Strong and Weak Predicates (2)
第7回	Strong and Weak Predicates (3)
第8回	Obligatory Adjuncts and the Structure of Events(1)
第9回	Obligatory Adjuncts and the Structure of Events(2)
第10回	The English Middle and Agentivity(1)
第11回	The English Middle and Agentivity(2)
第12回	The English Middle and Agentivity(3)
第13回	The Licensing of Unexpressed Objects in English Verbs (1)
第14回	The Licensing of Unexpressed Objects in English Verbs (2)
第15回	総まとめ(筆記試験)

**履修上の注意**

課題を出し、それを自分で調べて提出してもらってもある。テキスト(英文)を分担して読み、ディスカッションにつなげたいが、英語論文を正確に理解することが出発点であることを心得ておくこと。講義の3分の1以上欠席した場合は試験を受ける資格を失う。

**評価方法**

授業への参加度(4割)、課題(3割)、学期末試験(3割)を目安として評価する。

**テキスト**

テキスト：菅山謙正 編注『ことばの意味から文の姿を探る - 英語語彙意味論の演習 - 』英宝社

その他の参考文献は授業中に随時、それぞれ、提示する。

とりあえず以下の文献をあげておく。

S. Pinker (1989) Learnability and Cognition: The Acquisition of Argument Structure, MIT Press.